

防災

防災の充実・強化を

あらゆる場面を想定

今村 今年1月1日に能登半島地震が発生し、災害はどこ

で、いつ起こるか分からない事、備えの大切さを実感しました。災害備蓄食料の共同購入等、福祉施設と福祉避難所開設の協定、災害用井戸事前登録制度導入を伺います。

総務課長 備蓄食料は東部・役場防災倉庫で備蓄し、建設後の中部防災センターでも備

蓄予定です。共同購入は周りの動向を確認しながら対応し

ます。福祉施設との協定はしていませんが、町内7施設で、災害時の避難者受入れの承諾を得ています。断水時は、給水車（1台保有）で対応し広範囲の断水時は、日本水道協会に給水車の派遣要請で対応します。防災用井戸の事前登録制度導入は、近隣市町

指定避難所に指定予定です。指定後、作成に取りかかりま

す。外国人の避難対応も、近隣町の取組を参考に検討します。

今村 避難所開設時の区域設定や女性物資配布の配慮等、役割分担の明確化や協定企業との訓練の実施について伺います。

総務課長 女性・高齢者・障がい者・赤ちゃん連れ家族が避難時は、部屋分けや区域を設定し、女性用物資等は女性職員で対応します。協定締結企業との図上訓練はまだ実施していませんが、毎年人事異動の時期に担当者で締結内容の確認や意見交換を行います。

今村 宇美断層が横断し、地震による大規模災害長期化も否めません。災害の長期化を想定した訓練実施や自主防災組織役割の講演等実施を伺います。

総務課長 須恵町単独の防災訓練は実施していないので、自主防災組織と連携し、実施する防災訓練を検討していきます。

町長 あらゆる場面を想定し、自衛隊や消防と連絡を取っています。機会を設け自主防災組織へ、作った意味・役割等の明確な説明に私が出向きます。



答弁中の平松町長



今村 桂子 議員



映像配信

交通

コミュニティバス待合環境整備を

今後も利便性向上に努める

川口 コミュニティバスの活用は、高齢者にとって買物や通院と、日常的で便利な交通手段です。町民が利用する際の、待合環境を向上させる取り組みが必要と考えます。令和5年度年間利用者数をお尋ねします。

者数は伸びている状況です。

川口 車内に須恵町公式ラインの取得やバスの位置情報を知らせるバスロケーションシステムを掲示する考えはありますか。

りますか。

まちづくり課長 まず4地点を検討して、待合環境の向上を進めていく考えです。今後新たに公共交通との結節点があれば検討していきます。

川口 道路交通法の改正により、路線バスの停留所に関係者の合意が得られた場合、駐車が可能となりました。乗継の利便性にも繋がると思いますが、取り組みませんか。

町長 地域公共交通協議会の中で、担当課とコンセンサスを図らせながら、置ける場所にはベンチを設置していきたいです。バスを町民の方々が利用されて、「便利やね」と言われるような形にしていきたいので、担当課鋭意努力しております。

まちづくり課長 令和5年度利用者数は6万2360名、前年比約10%増となり、利用

まちづくり課長 車内には公式ラインの案内を掲示しており、公式ラインを取得いただければ、バスロケーションシステムは示しております。



川口 満浩 議員



映像配信

川口 地域公共交通通計画に、待合環境向上件数が示されており、4地点を令和10年度に達成することを目指しています。そのほかの施設で考えているところはあ

まちづくり課長 関係者に合意をいただき、バスの停留所4か所で取り組んでいます。
川口 バス停に屋根やベンチ等を求める声があります。待合環境の整備を進める考えはお持ちでしょうか。

